

未来のエネルギー社会は、 「境界」を乗り越える 若者たちに託したい

NPO法人 環境エネルギー政策研究所 所長
飯田哲也



いま日本のエネルギー政策は、原発のよ
うな巨大技術・中央集中型から、自然エネ
ルギー中心の分散・ネットワーク型へ転換し
つつあります。過去、原子力依存を進めて
きた政治と官僚システムは、「事実に基づか
ない」「合理的でない」「科学的でない」とい
った多くの「ない」からなる空虚な体制でし
た。リスクと現実を見ず、緊急時の対応も
機能不全でした。これはたんに政治や科学
技術に留まらず、日本の知識社会共通の
問題です。専門家や市民が普遍的な知を
共有しながら、新たな課題に開かれた姿勢
で積み重ねていく方向に知のあり方を組
み換えること。それを担う若者たちは、ま
ず広範な歴史と古典に学んで自分の物差
しをもち、徹底的に自分で考える。あらゆ
る「境界」を越えていってほしい。とくに「自
分にはこれしかできない」という思い込み。
そうした境界を飛び越える若者たちに、未
来のエネルギー社会を託したいと思います。

Tetsunari Iida

飯田哲也
NPO法人 環境エネルギー政策研究所 所長

いいだ・つなり●1959年山口県生まれ。京都大学大学院
工学部原子核工学専攻修了、東京大学大学院先端科学技
術研究センター博士課程単位取得満期退学。神戸製鋼に
勤務後、スウェーデン・ルンド大学に留学。自然エネルギーや省
エネルギーの推進のための国政への政策提言を行うNPO法
人環境エネルギー政策研究所を設立し、所長に就任。自然エ
ネルギー政策研究と実践で、国際的に活躍する第一人者。近
著に『原発社会からの離脱』（宮台真司氏と共著）『原子カ
ムラを超えて』（佐藤栄佐久・河野太郎氏と共著）などがある。